

審 議 会 名		川西市協働とパートナーシップのまちづくり懇話会	
事 務 局		企画財政部 政策室（内線：2111・2112）	
開 催 日 時		平成16年11月1日（月）18時00分～19時50分	
開 催 場 所		川西市役所503会議室	
出 席 者	委 員	山下 淳                      中川 幾郎                      小柳 教子 高山 修一                      安井 正弘	
	そ の 他	- - - - -	
	事 務 局	企画財政部長、政策室長、政策室政策担当主幹、 政策室副主幹、政策室主査	
傍 聴 の 可 否		可	傍 聴 者 数                      0 人
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由			
会 議 次 第		1．市民同士のネットワークの現状と課題、解決策について 2．出張懇話会について 3．その他	
会 議 結 果		1名の委員より、普段行っているJCの活動状況と課題等について説明を受けた後、その課題について議論した。 また、12月12日に市内3箇所で開催する「出張懇話会」のテーマや進行方法について議論した。	

発 言 者	発 言 内 容
<p>(開会)</p> <p>D委員</p>	<p>会長より開会の挨拶の後、市内事業者のD委員よりJCの活動状況及び行政との関わりにおける課題等について報告。</p> <p>社団法人青年会議所といたしまして、今の市民同士のネットワークの現状、課題、解決策ということで、資料17ページの方に書かせていただきました。青年会議所という団体がどのような団体かと申しますと、世界各国、日本全国にございます。全国で約45000人の会員となっています。この兵庫県の中でも27箇所のエリアで活動をしています。活動エリアは川西市と猪名川町です。この資料に書いている趣旨のもと、公益法人として運営しています。青年会議所をボランティアと言われますが、私はそのような解釈はしておらず、奉仕運動はしていますが最終的には自己啓発、自己研鑽という場としています。単年度で運営をしていますので、私は36代理事長ということで、4ページ目にありますけども、2003年度に理事長を務めさせていただきました。理事長ということで、20歳から40歳までの年齢制限がありまして、その中で運営しています。そして、1月1日から12月31日までの1年間、そして4ページにあります所信と事業方針を、毎年10月頃から来年はこういう形でまちづくりをやっていくということ、理事長が決意しまして、そこから理事が約10名います。担当がいろいろ分かれています。まちづくり系、ひとづくり系などに分かれて、この所信を基にこのまちに適したような運動を展開しています。そして、6ページ目が年間事業ということで、このように年間通して事業や交流に参加しています。その中でも、今力を入れているのが、「川西一庫レガッタ大会」というのを2003年度に始めましたが、これは所信に書いていますとおり、「オンリーワンのまちづくり」ということで、何か他のまちに誇れるような、よそのまちに真似のできないような事業がないかということで、一番はじめにこの委員会を立ち上げたときに一庫ダムを使ってレガッタ大会をしています。これは、あくまで2003年ぐらいから川西を教育のまちにしたいという思いを持っていて、青少年の健全育成に繋げるようなことが教育ではないかという趣旨のもと、2年続けてこの事業を行っています。レガッタ事業に関して10ページ目から書いてありますが、仕様書、企画書などこのようなものを立ち上げ、市や教育委員会、国際交流協会などの後援を得て、みんなで参画して作って欲しい、そして市内のあらゆる団体に対して声かけをして運営をさせていただきました。また、私たちはこのまちを教育のまちにしたいという思いを持っていますので、いろんな大学のボート部にも協力団体として入ってもらっています。そのような形でレガッタ大会を10月に行いました。少し、青年会議所は方向性を迷うところがありまして、今年度は昨年度と同じ形で行ったんですが、次年度は新しい試みでこのレガッタ大会を継続するということが決まっています。</p>

資料の 8 ページ、9 ページですが、昨年度の行政に対する外部出向という形で務めさせていただいた一覧表です。いわゆる 3 役と言われている人たちが外部出向という形で行政に参加しています。

そして、ネットワークに対する課題ですが、資料の 15 ページに書いていますが、中には私だけの意見もありますが、この外部出向していたメンバーを対象にこの 1 週間集まる機会がありましたので、議論をしたのですが、前回の時に A 委員からいろいろ意見がありましたが、重複しているところはある程度削除してきました。

順番に説明しますと、 の「委員会設立の目的や効果を考えず立ち上げてはいないか。」というのは、私たちは定款というものに基づいてロバート議事法という会議法で運営を進めていって、項目を取り出して、何のためにこの事業を展開するのか、どんな効果があるのか、そのための予算はどれだけあるのか、ということで一つの事業について協議が 2 回、審議が 1 回で最低 3 ヶ月はかかるようになっていて、審議が可決後その事業が展開でき、3 ヶ月以内に事業報告という形、いわゆる決算報告書ですが、それを添えて事業報告を審議するということになっています。ですので、外部出向する中で、みなさんそういう形になれているので、いつも、 や のような不満を感じて帰ってきます。「様々な協議会等があるが、内容等が重複しているのではないか。」については、いろんな部所で委員会を立ち上げているなかで同じようなものがあると感じています。例えば中心市街地で何か運動をしていくという話があるかと思えば、次の月などに県の事業があるといった具合になっています。そのようなことが果たして効果があるのかどうか疑問に感じています。仮にこれを一括にすれば、市の予算ではなく県の予算で賄えたりということで市の財政に少しは潤いが出てくるのではないかと思いますので、何か事業をする上ではしっかりと考えていただきたいという意見が出ていました。「行政からのトップダウンでもいい場合もあるが、本当の協働という意味でも市民からのボトムアップが多い方がよいのでは。」については、すでに行政側の事業で決まっていることは、トップダウンでもいいと思いますが、これから考えることや、このようにしていったら、より一層楽しいのではないかという協議が非常に少ないんじゃないかと思います。そこで民間の方の意見がたくさん欲しいなあということで、委員会を作ったとてとても良いものができるのではないかという意見が出ていました。

「川西市にどのような意義や目的を持った団体があるか把握しているか。」ということですが、出てこられる方がいつも同じであると言うことは、前回 A 委員の方からでていましたが、ある事業をみても、そういうことに詳しい人たちがいるにもかかわらず、相変わらずいつも同じような顔ぶれの委員で、何の進展もないような議論をしている事例がいくつもあるという意見も出ていました。「教育委員会と学校と家庭との連携がとれていないのでは。」ということ、私たちは青年会議所が一番痛切に思っていることで、私たちはこのまちを教育のまちとして伸ばしていきたいという大きな趣旨を

	<p>もっていますので、この 番が今までの経験の中で、一番大きな課題ではないかなあと考えています。レガッタ事業を通して一番考えてきたことで、不安に思っていることです。例えば、教育委員会の方から学校長の方へ依頼し、学校長の方から父兄、子どもたちへ依頼をしていただきますが、まったくまとまりがありません。学校長の方からも、「うちは協力するけどもよそは知らない」という声も聞かれます。これは、一方的なＪＣ側の意見ですし、私たちの願望でもございます。そして、最終ページに意見書という形で書いておりますが、三位一体と広域行政ということで、いろんな事業も展開してきましたが、青年会議所の方でも、合併ということをお話し合ってきましたが、まだまだこのまちは独自で伸びるのではないかとということで、いろんな所の情報を吸収してきたりしています。この意見書では、川西市としてこれからどのようになっただけいいのかということを書かせていただいています。特に他市等の事例を挙げていますが、千葉縣市川市や埼玉県志木市の事例がありますが、川西市でもこのようなことをしていただければいいのになあという希望を持っています。また、一番最後に書いていますが、読ませていただきますと、「小・中・高校生が参加する各種スポーツの全国大会を継続的に開催する取組みを支援し全国各地の青少年のあこがれ・目標とするスポーツ拠点を形成すると共に大学誘致を行い、また、地域の市民がそれぞれの魅力を共有・享受できる地域づくりをめざし中心市街地の活性化を図りオンリーワンのまちづくりをするべきだと考えます。」ということです。これがこれからこのまちに関わってまちづくりをする団体として、今後３年間の事業方針でございます。以上が青年会議所からの意見です。</p>
会長	<p>ＪＣとしては、レガッタ大会もですが、教育というところが一番の目標になるわけですか。</p>
E 委員	<p>はい。今はそういう方向で行っています。それと、「安全なまち」というのも一つのテーマにあげております。安全といえますのは、今、豊岡や新潟でいろんなことがありますので、川西でも住民が安心して暮らせるようなまちに、そして、川西の住民がこのまちから離れず、そして、よそから川西に入ってきてもらえるようなまち、２０万都市を目指すには、やはり教育と安全であろうということで、すすめています。</p>
会長	<p>１６ページの意見書の中にあつた、市川市や志木市の事例は最近注目を集めているものですが、これ以外にも長野県の村でも寄付金集めをしたりしていますが、ＪＣとしてこのようなことを市に対して要望を出そうとか、そのようなお考えはあるのですか。</p>
D 委員	<p>まだ、そこまでは考えていませんけれども、いろんな情報を得ていますので、ＪＣとしてはそうなればいいなあとは考えています。</p>

会長	市としてNPOに対する活動支援というのは、どのような形になっているのですか。
事務局	お金の形では、現在のところありません。先日、E委員の方からご報告いただきましたが、公設公営という形でパレット川西・市民活動センターがあり、情報発信の基地あるいは活動していくための貸館、場所の提供という形での支援ということになります。
事務局	E委員のところのボランティア連絡協議会は、社協の方からすべて業務を請け負っているんですね。市から直接ではないですね。
E委員	はい。すべて、社協の方からです。 社協は、一般市民から見て行政なのか民間なのかわかりにくい存在になっていると思います。市から委託された事業もありますし、県からの受託事業もあります。ただ、社協は民間ですので、何かV連がしたいなぁと思うことを持ちかければ、割合早く決断をしていただけるという風には感じております。先日の水害、震災についても支援をしてはどうかという提案に対しても、2日くらいで決断してもらえました。そういう意味で、連携のしやすさは感じています。
C委員	説明資料の疑問と要望に書かれてるように、いろんな協議会を作って、重複するような組織があるというのは、川西に限らず全国でもそうです。それはなぜかということ、市民側が行政の縦割りの官僚化を肯定してきたからなんです。それを利用してきたんです。自分たち自身が新しいタイプの経営モデルを作ることができていないから、次の提案ができていないのです。その時に、行政の縦割りがおかしいという批判がまず出ます。その次に出るのが議会はたるんでいるということですが、それよりもまず市民社会の自己解放と、どうして市民同士の横のネットがつながりきらないのかということと3点セットで問いかけないといけません。 これを解決していくには、行政側に直せというだけでは前に行かないと思います。
D委員	これは、決して直せという意味ではなくて、私たちが協働して、出るところにはとことん出て行って、私たちの意見を言っています。
C委員	それは、非常にいいことだと思います。ただ、JCの弱味は、役員が1年でごろっと変わってしまうところです。継続性という点で非常に弱いんです。しかし、斬新さとか革新性とかいう面では、毎年非常に良いことを言っています。それが、次の役員に引き継いだ段階でそれを財産化して継続して責任を持ってやりましょうという体制になかなか全国的になっていなんですね。だから、実際のところ地域コミュニティ型の自治会に負けてしまうんです。

	<p>社会福祉協議会などは見事に行政の縦割りの中で生み出された社会福祉法人ですから、地域性も持っている、コミュニティ性も持っている、アソシエーション性も持っているという、今の地域社会の中で最強の集団なんです。下手をすると社協が官僚化するとどうにもならなくなります。</p> <p>アソシエーション型の組織の強み、コミュニティ型の組織の強み、そしてその中間にいるものが社協であるという分布がある中で、お互いがどのように役割分担してうまくネットワークを作っていけばいいのかということを考えていかなければなりません。行政は、それに対応して組織・機構を変えるだけの覚悟を持たなければいけない時期がいずれ来ると思わなければいけません。</p>
<p>会長</p>	<p>市、JC、コミュニティ、社協とも自分たちがどう連携していくかということのイメージを持っていないから、お互いにネットワークしなければと言うのだけれどどうもいっていない気がします。</p> <p>JCに対しては、私はもう少し具体的な、こういうしくみを作ったらどうかという提案を行政に対して突きつけていくということが必要ではないかと思います。JCの場合はどんどん役員が変わっていくので、継続ということは何か特定のものをぶつけていくということを引き継いでいくということではないでしょうか。</p> <p>川西市の場合は、私も未だによくわからないのですが、協働とパートナーシップと言われても、前回のお話の時もそうだったのですが、パートナーシップ型の市民活動検討会議で拠点づくりの報告書が出てきてますが、市がどこまで受け止めたのかとか、いったいそこでどういう議論をしたのだろうかとかいう疑問があります。社協のボラセンではなくて、自立した組織としてのNPOみたいなものを想定したセンターとすれば別に切り離さなければいけないのではないのかとかいう発想がどこまであったのだろうか。市役所の中のいるいるなところで、いろいろなことをしてきたことを系統立ててトータルなイメージが持たれているのだろうか、そういうものを目指して積み上げてきているのだろうかというところが疑問が残ります。前回と今回のお話を聞いていて思いました。</p>
<p>A 委員</p>	<p>私は、JCというものを今までよく知らなかったが、今日お話を聞いて判りました。確かに私も先週言いましたが、ネットワークというものが弱いです。市の方では自治会長会議を2地区に分けてされますが、あれは何もならない会議だと思えます。我々は、だいたい同じくらいの規模の自治会で組んでいるのですが、共通した規模で、共通した話題が出てきます。それをしていかないと、なかなか自分ところだけでは運営がうまくいかない。だからネットワークと会長がおっしゃることを既に始めているのですが、なかなかこれ以上増やすというところが難しいところがあります。</p>
<p>D 委員</p>	<p>このように一方的に行政側にいろいろ要望などしていますが、私</p>

	<p>の個人的な意見ですが、青年会議所も考え方を変えなければいけないところがあって、これまでは高飛車なところもあったのですが、これからはこちらから汗をかいていると、向こうから一緒にしようと言ってくることを大事にしていこうということとしています。</p>
A 委員	<p>E 委員にお聞きしたいのですが、社協の方では何かブロックに分かれているのですかね。</p>
E 委員	<p>はい。地区の福祉委員会で15のブロックに分かれています。</p>
A 委員	<p>地区の福祉委員会は、あまり会議をしていないのですか。</p>
E 委員	<p>地区の福祉委員長会議は年に数回程度です。</p>
A 委員	<p>地域的な連携をとっているのは、第5ブロックだけです。まさにこれがネットワークだと思います。たとえば、こういうことを市が強力に推し進めていくとかすればいいんじゃないでしょうか。</p>
E 委員	<p>さきほど、大きな自治会で3地区連絡をとっているというお話でしたが、ほかの地区では事情が違いますので、一概に同じように連携を図れるかというところが難しいところがあります。</p> <p>また、福祉だけに限らず教育や環境など全体を含めたネットワークが必要ではないかと感じています。そういうことで全市的に動いているような中間支援団体が地域にあるNPOなどと連携をとればいいのではないかと思います。</p>
A 委員	<p>会長、ネットワークとはどのように構築するのがいいのでしょうか。</p>
会長	<p>地域差がありますが、一つには地域的な団体だけでは足らなくて、地域的な団体とそれ以外のグループがどのように縦と横の連携を図るかと言うことが大きな課題になります。その点言えば、ボランティアなセクターとして社協的なイメージが強すぎるのではないかと。また、ネットワークを作ろうとするならば、何か共通の話題がないといけないのではないかと思います。そういうものなしにネットワークを組もうとしても、長続きはしないと思います。</p>
C 委員	<p>ネットワークは必要があってできるものであるし、ネットワークを自己目的化するというのは間違っています。</p> <p>例えば、今私が関わっている神戸市の地域づくり推進条例のしくみは、広い範囲では共通の課題がもてないので、最大限で小学校単位以下の住民自治組織を作っていくということで、がんばるところは応援しましょうというものです。</p> <p>ただ、D委員のところのように全市的に活動をされているところ</p>

	<p>は、小学校単位のような小さなところをコアにするのなら、JCとしてはどのように関わっていけばいいのかという悩みを持たれると思います。教育のまちということ掲げたなら、全市的にはそれでいき、局地的には の地域でJCさんに助けて欲しいという声が出たときに力になれる組織であるということアピールし続けるべきだと思います。多角的な力で各地域に関わっていけばいいと思います。そうしようとすると、このメンバーだけでは足りないということになるが、それは各地域から出てきている委員さんがいるわけだから、その人を中心に実態を把握して協力していけばいいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>地域のネットワークとか、地域の取組というのは、問題は一過性で終わらせないということだと思います。ネットワーク自身は汎用性があるというか、オールラウンドプレーヤーなんだから、どんなテーマから入ったとしても、それがどんどんレベルが上がって行くようになればネットワークが機能するのだと思います。ネットワークとはどんどん広がっていくものだと思うし、広がっていくと校区というものを超えていくのではないかと思います。そのためのきっかけというのは、何か小さな問題が起こったときに、自分たちだけではしんどいということで活動を広げていく仲間を作っていくかということだと思います。</p> <p>もう一つ重要なのは、地域的な組織がオープンな発想をもてなければならぬということです。自分たちでもするけれども、どうやって他の活動しているグループというものを引っ張り込むかというところが、今はまだできていないのではないかと思います。だから行政も縦割りだし、それぞれ組織も縦割りという感じになってるのではないのでしょうか。</p>
<p>C 委員</p>	<p>他市の事例ですが、ある住民自治協議会が頑張ってるから行政も応援し資金も出すと、他の校区から文句が出ます。行政側の答えは、あそこは自律的に頑張っているから、それを応援して完成させれば市民のモデルになる。だから応援しているのですということです。コミュニティも、今会長が言われたように自分たちの自治会のエリアだけでやっていることにおいては、決して公益的な団体ではないのです。共益団体です。</p> <p>川西市でも、モデル性のあるところについてはアドバンテージを与えて応援していくという、やればやるほど得をするというシステムを考えたらいいと思います。</p> <p>支援の仕方にも、0からスタートするときの助成の次元と成長期に入ったときの次元、完成したときの次元でのパートナーシップの整理をしなければいけない。</p>
<p>A 委員</p>	<p>川西市でもモデル というのができたのは、最近ではないでしょうか。</p>

会長	<p>福祉デザインひろばがありますが、ゆくゆくは福祉ということばがとれた、まちづくりという広いものになればいいというのが、今我々が議論していることでしょう。</p>
C 委員	<p>さきほどD委員が出された意見書の中にある市川市や志木市のやり方と似たような方法で、あまり苦労せずにできる方法があります。例えば、コミュニティなりNPOなりが何か事業をやりたいといったときに、一律に地域別交付金を出すといったやり方は少し問題がでます。</p>
会長	<p>団体を支援するのではなくて、団体の行う活動を支援しなければ意味がないということをしつこく言うのですが、なかなか行政のほうはそうしません。</p>
C 委員	<p>団体それぞれが財政的に自己財政形成力を持っているとか、会費をきっちりと集めているとか、協賛金を集めているとか・・・そういうたくさん集めてきたところに、行政がたくさん支援をするという仕組みをマッチング・グラントという言い方をしますが、要するに頑張れば頑張るほど政府からお金がくる、ただし、政府は年間予算が決まっているからマッチング・グラントで頑張ったところほど、たくさんもらえるという奪い合いになります。これは逆に競争のルールが働きます。今のだめなところは、何もしないところも一生懸命頑張ったところも同じだけ支援されるとしないところのほうが楽でいいということになる。</p>
事務局	<p>川西市でも昨年、団体に対する補助金の見直しを行って、いろいろお世話になって提言をいただいたところですが、昨年は時間がなかったということもあり、団体に対する補助金の一律削減を行ったのですが、今年は第2次の見直しということで団体に対する運営補助は原則廃止し、活動助成にシフトしていくという方向で、来年度からは活動状況をよく見極めた上で助成していくということになると思います。</p>
会長	<p>活動補助に切り替えるということと、活動についてどれくらいのお金がかかりますか、どれくらい自分たちで取ってこれますかということとしっかり自己資金を取ってこれるかということが重要になると思います。</p> <p>マッチング・グラントの発想というのは、お金をくれるからするのではなくて、自分たちはこれくらいお金を集めてこういうことをやりりたいけども、少しお金が足りないから補助がほしいという、やる側のイニシアティブ、自発性を大事にする仕組みを持たないといけないということです。そういう中で行政と市民セクターとの境界線ができてくるのではないのでしょうか。</p>

会長	<p>それでは、出張懇話会について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>〔日程について説明〕</p> <p>今回特に出張して、広く市民の皆さんの意見をお伺いするするという趣旨で行いたいと思っています。基本的には、懇話会の第1回目から話をしてきた市民活動、あるいは地域における活動の実態と浮かび上がっている課題ということがそれぞれの委員さんから出てきていますが、地域に下りたときも同じような形で課題の洗い出しと具体的にどのように改善していくと、より市民主体のまちづくりという形でよりよい仕組みができあがるのかという提案型の会議にしたいというふうに考えております。</p> <p>また11/15号の広報かわにしで募集したいと思いますが、それだけではなかなかひとが集まらないと思いますので、できれば市民委員さんのほうより声をかけていただければ助かります。</p> <p>グループワークでのテーマ設定をどうするかということも協議いただきたいと思います。とりあえず、事務局案として、自由選択性という形で「行政活動への市民参加」、「市民活動への行政の支援」というものをあげさせていただいてます。</p>
会長	<p>まず、テーマの方ですが、この二つのテーマを市民の方に投げかけて、さあ、議論をしましょうといっても多分意見が出てこないと思います。</p> <p>それから、もう1点。この出張懇話会に期待するところは、課題の洗い出しにおくのか、それともこれから取り組む解決策、仕組み、政策づくりに対する提案というところにおくのかどちらですか。</p>
事務局	<p>後者のほうです。解決型ということで今何が足りないかというところをどんどんあげてほしいと思っています。</p>
会長	<p>それなら、最初に「どうすればいいんでしょうね。」というところをはっきり言っておかないと、意見が出てくるかどうかわかりません。</p>
事務局	<p>いきなり提案ということではなくて、話の流れからいくと現状を把握してからのことになると思いますので、それを地域として、また市民活動団体として、どのようにしていけばいいのか、そのために必要となる仕組みとは何かということこみろに結論を持って行ってほしいというお願いはしなければいけないと思います。</p>
会長	<p>だいたい何人ぐらいを予定していますか。</p>
事務局	<p>1会場30人程度で、5～6グループくらいできたらと思っています。それぞれの委員さんにグループをまわっていただいて、助言などを</p>

<p>会長</p>	<p>していただけたらと思っています。</p> <p>この2つのテーマにせずに、むしろ、各グループで自分たちの地域、あるいは川西という地域を自分たちが主体となって作っていくにはどうしたらいいのか、どんな問題が地域にあるのか、自分たちで解決していくにはどうしたらいいのか、という実現策を考えてもらうような、もう少しだけたテーマのほうが意見が出やすいのではないのでしょうか。</p>
<p>中川委員</p>	<p>今、会長が言われたようなテーマにしようと思うと、「住民自治が根付く川西づくり・地域づくり」とか・・・</p> <p>〔具体的な進め方について議論・・・KJ法、フォーマット等〕</p>
<p>事務局</p>	<p>その他、前回の議事録の確認依頼と次回の会議の日程について説明。</p>